

生物多様性ハイレベルサミットに対する市民社会の要求

2020年9月30日、国連生物多様性サミットが開催される。

生物多様性の危機、それに対する緊急行動が求められているなか、このサミットは世界の注目を集めることだろう。しかし、生物多様性にとって重要な意義をもつ対話は十分ではなく、特に自然破壊の影響を最も受け、生物多様性の保全に重要な役割を果たしている市民社会をはじめとしたグループの参加が確保されていないことが懸念されている。

私たちは、市民社会の声を反映するため、各グループの発言者指名という民主的なプロセスが、今回のサミットにおいて行われぬことに抗議する。生物多様性の破壊に最も責任を負っている世界最大の企業や金融関係者が、サミットでは重要な役割を与えられているにもかかわらず、先住民、地域コミュニティ、女性、若者、伝統的な先住民の農業システムおよび小規模な食糧生産者が、それぞれの組織を通じて十分に代表者が参加できないという事実を非難せざるをえない。

また、私たちは、各国政府には生物多様性を保護する義務があるだけでなく、人権の保護を遵守しなければならないことを勧告する。その実現のためには、このサミットが権利者たちやコミュニティの効果的な参加を保障し、各国政府が公約に関する説明責任を果たすことが必要だ。

さらに、私たちは、各国政府が、生物多様性条約の支援のもと、条約のすべての条項と矛盾なく導き出された野心的な生物多様性グローバルフレームワークを目指すプロセスにおいて、誠実に関与することを強く求める。生物多様性グローバルフレームワークは、自国に都合のよい目標、有利な目標だけを選んだものであってはならず、生物多様性条約の法的義務を総合的に履行するための直接的なツールでなければならない。今回のサミットは、このプロセスを先に進めてしまうのではなく、生物多様性条約という国連独自の場所における交渉や合意をサポートするべきだ。

■現在の深刻な生態学的危機を克服するために、新しい生物多様性グローバルフレームワークは、生物多様性の損失の根本原因に対処し、真の意味での変革に向けた道を切り開く必要がある。

- ▶環境法の基本原則、および国際人権フレームワークのもとで、各国が CBDにおいて合意したコミットメントに基づいていること。これには、次のようなものも含まれる。CBDは、締約国に対し「保全と持続可能な利用に重大な悪影響を与える、または及ぼす可能性のある活動」(注1)は、「その影響がどこで発生したかにかかわらず」、また「国内の管轄の範囲内、範囲を超えて」「保護地域の範囲内、範囲外」にかかわらず、生物多様性に「その管轄または管理内の活動が損害を引き起こさないことを保証する」ことを法的に義務づけている(注2)。
- ▶生物多様性に対する危害からの撤退の期限を設定し、逆効果をもたらす奨励措置を変更すること。政府が、補助金や財政的インセンティブをインフラやその他の生物多様性に悪影響を及ぼすプロジェクトに対し、はるかに多くの資金を投入し続けている限り、生物多様性保全への投資を増やすことを求めても意味がない。
- ▶生物多様性の損失の主な根本原因である持続不可能な消費・生産は、自主的な取り組みでは対処できない。必要なのは、規制措置に裏打ちされた強力な政策を含めた体系的な変化である。
- ▶強力な権利に基づくアプローチを中心とすること。それは、すべての人権、特に先住民族や地域コミュニティ、農民やその他の小規模な食糧生産者の権利を、保護し、尊重し、実行し、また健全な環境への権利を実現することだ。そして母なる地球が多様性をもって存在し繁栄する権利を認め、エコサイドは国際犯罪であることを認識するということである。
- ▶農民の種子、家畜の品種、地域の漁業等に内在する農業生物多様性を高める方法によって、食糧主権、アグロエコロジー、小規模な家族農業や漁業、地域のスモールスケール・イニシアティブを、実施するための条件を整え、実行する際のハードルを下げること。
- ▶生物多様性条約における義務全体に基づいた適切かつ効果的なモニタリングを含めた権利に基づいたレビューと説明責任のシステムがあり、生物多様性条約のレベルと調和がとれており、途上国の能力を考慮したうえで、彼らが必要とするであろう支援を提供すること。これらの実装は、世界的な生物多様性の損失と劣化の拡大を防ぐために効果的である。このモニタリングシステムには、非国家の公益活動家による批判的なレビューが含まれ、また生物多様性条約第20条(注3)の実施も含まれていなければならない。

■リオ以降（1992年開催された環境と開発に関する国連会議）、市場ベースのアプローチと自発的なアプローチがすべて試されてきたが、失敗の証拠が山積みの状態だ。今こそ、強力な公共投資が求められている。それは実績があり、信頼できる手段、つまり税金や生態学的負債の支払いによる富の再分配を通じて生み出すことができる。私たちは過去の過ちを繰り返す余裕はない。

▶保護地域を増加させるという包括的な目標を掲げても、生物多様性の損失を食い止めることはできない。保護地域は、これまでのところ生物多様性の損失の加速を防いできたわけではない。むしろ、私たちの生活と過剰消費によって全体的に成長させてしまっている生物多様性への悪影響を、すでに劣化に苦しんでいる他の地域に振り向けている。保護地域は、日和見的な資金調達、PR価値、トップダウン型ガバナンスが優先されるといった不適切で管理が不十分な設計になっていることが多く、公平性を促進するどころか、地域社会を傷つけ、人権を侵害してきた。並行して発生している搾取と富や利益の横取りの指数関数的な成長に見られるように、保護区の価値はさらに損なわれている。

▶保護地域よりも先住民族の領土やコミュニティが管理する土地や森林の方が、生物多様性の保全には効果的であることを示す証拠が増加している。したがって、ポスト2020生物多様性グローバルフレームワークを含めた生物多様性のためのあらゆる行動は、先住民族、地域コミュニティ、女性、先住民族の農業、小規模農民を、生物多様性保全のための今後の取り組みの最前線かつ中心に据えなければならない。現状では、これらの人々の権利は、最低限のレベルですら保護されていない。

▶「自然ベースのソリューション」という概念は、生物多様性条約の文脈では不確定な概念のままであり、生物多様性の保護と保全を目的として生物多様性条約で長年かけて確立された「生態系アプローチ」を損なう可能性がある。「自然ベースのソリューション」という誇大宣伝は、例えば、化石燃料の排出者たちが、ソリューションと排出量を相殺することによって排出を継続していくために利用されている。

▶次の10年間の生物多様性政策において、人獣共通感染症とパンデミックという将来の主要なリスクへの対応を怠ることはできない。生物多様性グローバルフレームワークの現段階のバージョンは、人間の健康と福祉と、植物・動物・生態系の健康と福祉のつながりを示す「One Health and One Welfare」を見落としているがために、将来の人獣共通感染症の流行という迫りくるリスクに対処できない。私たちは、地球の多様な生命の健康と福祉を脅かす行為を排除し、より健康的で持続可能な消費パターンへと移行するべきである。

世界は今、私たちの生存を脅かす複数の危機を経験しているところだ。生物多様性の損失は、気候変動による危機や現在のパンデミック、そして受け入れがたい不平等と本質的に結びついている。これらは、富や利益の横取りと搾取に基づく略奪的な生産と消費システムの産物であり、その結果、生命維持システムの破壊が引き起こされている。遺伝子ドライブを含む遺伝子組み換え生物の自然界への放出を含めた合成生物学やゲノム編集のような新しい技術は、その「解決策」ではなく、現在の私たちの危機をさらに高める可能性を秘めている。

私たちは、2050年までに自然との共生を達成するための軌道に乗らなければならない。地球は、「人間中心の社会から地球中心の地球生態系へのパラダイムシフトを通じて」しか守ることはできない。国連は「非人間中心主義の擁護者であり、自然界を代表して声をあげ、21世紀が、すべての人間と人間以外の生物種の命が大事にされる地球を中心とした世界となるように移行させてゆくための主導的役割を果たさなければならない」。(注4)。

すでに明白でよく知られている生物多様性の破壊が驚くべきスピードで進んでいることや私たちの行動の失敗を述べたさらなる報告を、私たちはこれ以上待っているわけにはいかない。私たちが必要としているのは、経済システムと開発モデルを最終的にきっぱりと変革、変容させるための勇気ある行動である。

文責：国連生物多様性の10年市民ネットワーク代表 坂田昌子

Notes and References

1. CBD articles 7 (c) and 8 (l)
2. CBD articles 3, 4 (b) and 8 (c)
3. Do's and Dont's document containing more detailed elements of the positions from civil society
4. A/75/266

Signatory organizations / networks / groups from all over the world (139 in total):

Third World Network
Global Forest Coalition
FIAN international
World Animal Network
Survival International
Natural Justice
New Wind Association - Finland
EcoNexus
Japan Civil Network for the United Nations Decade on
Biodiversity
Community And Family Aid Foundation-Ghana
Centar za životnu sredinu/ Friends of the Earth Bosnia and
Herzegovina
Green stewardship international, Ghana
Corporate Europe Observatory
Green Finance Observatory
Sri Lanka Nature Group
FIAN Sri Lanka
Environment Conservation Trust - Sri Lanka
Lanka Organic Agriculture Movement
Reacción Climática - Bolivia
FIAN Belgium
Blue Ridge Impact Consulting, North Carolina, USA
Agora Association-Turkey
CHIRAPAQ, Centro de Culturas Indígenas del Perú
ECMIA (Enlace Continental de Mujeres Indígenas de las
Américas)
Society for International Development (SID)
Observatorio Plurinacional de Salares Andinos, Chile
Indigenous Environmental Network
Indigenous Knowledge and Peoples Network, Society for
Wetland Biodiversity Conservation Nepal, Federation of Kirant
Indigenous Associations Nepal
Food Security Network- KHANI, Bangladesh
Participatory Research Action Network- PRAN, Bangladesh
Association Actions Sans Frontières Madagascar
National Adivasi Alliance India
Confédération Paysanne du Congo-Principal Regroupement
Paysan
Human Rights Concern - Eritrea (HRCE)
Earth Law Center
Armenian Women For Health And Healthy Environment
Attac France
FIAN Colombia
Karuna Mission Social Solidarity-Loikaw (KMS-Loikaw),
African Volunteers Association, Uganda
FIAN Sweden
The Development Institute
Food Sovereignty Ghana
Pa-O Youth Organization (PYO)
Burma Environmental Working Group (BEWG)

Women Acting Together for Change (WATCH), Nepal
African Centre for Biodiversity, (South Africa)
Eastern and Southern Africa Small scale farmers Forum
(ESAFF) Morogoro Tanzania
Navdanya International
Emmaus Aurinkotehdas ry
Zambia Alliance for Agroecology and Biodiversity (ZAAB)
EASUN Center for Organizational Learning Fundación
Patagonia Natural
Fundación Patagonia Natural, ONG
Asociación Ambiente y Sociedad - Colombia
Defensa de los mares al sur del mundo - Chiloé+Patagonia
(Chile)
Fundación Biodiversidad Argentina - Argentina
Health of Mother Earth Organisation (HOMEF),
Aliados por Mérida - México
Action for Sustainable Development
Pivot Point, A Nonprofit Corporation (USA)
Nature Tropicale ONG - Benin
Association Nodde Nooto (A2N) Niger
Amis de l'Afrique Francophone- Bénin (AMAF-Benin), Benin
Afar Pastoralist Development Association, Ethiopia
Partners for the Land & Agricultural Needs of Traditional Peoples
(PLANT)
Casa Río Lab, Argentina
Rainforest Foundation UK
Institute for Agriculture and Trade Policy (IATP),
Kalpavriksh, India

Palestine Institute for Biodiversity and Sustainability
(PalestineNature.org)
Australian Rainforest Conservation Society
AbibiNsroma Foundation
Federation of Community Forestry Users, Nepal (FECOFUN)
Alliance for Empowering Rural Communities (AERC-Ghana)
Avaaz
Al-Haq - Palestine (www.alhaq.org)
FAPD: Fédération des AgroPasteurs de Diender -Sénégal
Southern African Rural Women's Assembly -
Trust for Community Reach and Education (TCOE) South Africa
Biowatch South Africa
Fundación Ambiente y Recursos Naturales (FARN) - Argentina
ETC Group
WildOceans, South Africa
African Wildlife Foundation (AWF)
Pesticide Action Network North America (PANNA)
CoopeSolidar R.L
Zambia CBNRM Forum, Zambia
Washington Biotechnology Action Council (WashBAC, Seattle)
Marche MONDIALE DES FEMMES TUNISIE
Centro Ecosocial Latinoamericano
Alianza Nativa de Chile
Pederasyon sa Nagkahugpong mga Mag-uuma nga Nanalipud
ug Nagpasig-uli sa Kinaiyahan Inc. (PENAGMANNAK Inc.)
Brighter Green (USA)
Population Matters
VRIKSHAMITRA(Friends of Tree) INDIA

Tebtebba (Indigenous Peoples' International Centre for Policy Research and Education)
Asia Indigenous Women's Network
ICCA Consortium
MARUAH, Singapore
Sahodaya Trust, Gaya, India
African Conservation Centre (ACC), Kenya
World Initiative for the Nature, (WIN), Burundi
Coastal Oceans Research and Development in the Indian Ocean (CORDIO, East Africa)
Climate Action Network Tanzania
Coalition Nationale de Plaidoyer Environnemental (CNPE Madagascar)
Namibian Association of CBNRM Support Organisations (NACSO) Namibia
Community Leadership Network CLN (Southern Africa)
Public Association "Dignity", Kazakhstan
Hawai'i Institute for Human Rights
Pesticide Action Network UK
Kasisi Agricultural Training Centre, Zambia
Pestizid Aktions-Netzwerk e.V. (PAN Germany)
Pesticide Action Network Asia Pacific (PANAP)
Inyanda National Land Movement - South Africa
Pesticide Action Network Europe
POINT (Promotion of Indigenous and Nature Together) www.pointmyanmar.org
Community Resource Centre Foundation (CRC) - Thailand
Tanzania Alliance for Biodiversity
Pesticide Action Nexus Association (PAN-Ethiopia)

BirdWatch Zambia, Zambia
Center for Research and Documentation Chile-Latin America (FDCL / Germany)
Organisation Béninoise pour la Promotion de l'agriculture Biologique (OBEPAB)
Coorg Organisation for Rural Development Karnataka India
Africa Center For Energy and Environmental Sustainability (ACEES)
Jeunes Volontaires pour l'Environnement au Niger
Pesticide Action Network India (PAN India)
Pesticide Action Network Africa (PAN Afrique/Africa)
Pesticide Action Network International (PAN International)
Pesticide Action Network Aotearoa New Zealand (PANANZ)
La Red de Acción en Plaguicidas y sus Alternativas de América Latina (RAP-AL)/ PAN Latin America www.Rap-al.org
Centro de Estudios sobre Tecnologías Apropriadas de la Argentina (CETAAR)
RAP-AL Uruguay (Red de Acción en Plaguicidas y sus Alternativas de América Latina - Uruguay)
Red de Acción en Plaguicidas y sus Alternativas en México (RAPAM) - PAN México
Red de Acción en Plaguicidas de Chile (RAP-Chile) - PAN Chile
Centro Internazionale Crocevia
Caritas Zambia
Friends of the Earth International
COECOCEIBA - Amigos de la Tierra Costa Rica
Amigos de la Tierra América Latina y el Caribe - ATALC